



いなむら

稲村ひさお 道政 だより

2018年 冬号

発行

稲村ひさお事務所
砂川市晴見3条北10丁目9番4号
TEL・FAX 0125-54-3385

空知そして北海道の発展を目指して

新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年10月に衆議院解散による総選挙が行われ北海道第10区では、神谷裕氏が激戦の末、513票の僅差であと一歩及ばなかったものの、比例代表において見事に初当選を果たしました。

しかし、全国的には、自民・公明与党の圧勝を許し、さらに、改憲発議に必要な3分の2以上の議席を確保したことで、選挙後行われた特別国会において安倍首相は、憲法9条に自衛隊を明記する憲法改正案の早期策定を表明するなど、安倍政権の暴走がさらに加速していることは明白です。国民の安全・安心が脅かされている今こそ、神谷衆議院議員が国政の場で存在感を示し、この暴走に歯止めをかけることが私たちの切なる願いです。私も神谷衆議院議員と密接に連携を図り、道議会活動を進めていきます。

道政においても課題は山積しており、私自身、道議会の場において「地域医療の確保」や「JR北海道の路線見直しに関する課題」などを中心に、道民の方々の切実な声を原動力として政策を訴え続けてまいりました。3期目の任期も残り1年余りとなりましたが、皆様の期待を背に、空知そして北海道の発展を目指して、今後も全力で取り組んでまいります。本年が皆様にとってご健勝で幸多き一年であることをお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。



皆様の声を道政に届けます

北海道議会議員 稲村 久 男

「稲村ひさおと明日の道政を拓く会」会長就任のご挨拶

日頃からご厚情、ご指導を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

私、若山武信は、長沢徹元北海道議会議員の会長退任に伴い、新たに会長の任を受け継ぐことになりました。

長沢前会長におかれましては、多大なるご尽力で会を発展いただいた功績に心から敬意を表しますとともに、今後は顧問としてお力添えいただくことをご報告いたします。

さて、私のモットーは「誠心・誠意」です。「稲村ひさおと明日の道政を拓く会」の会長としても、「誠心・誠意」に会員・役員の皆様と手を携え、「稲村ひさお」の活動を支えていく所存でございますので、今後ともなお一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



よろしく願い致します。

稲村ひさおと
明日の道政を拓く会

会長 若山 武 信



議会活動報告

第3回定例道議会においては、保健福祉委員長として、国に対する「診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書」を提出しました。また、会派として「地域医療の確保に向けた提言集」を作成するなど、地域医療を立て直すため、地域に任せるだけではなく、主体的かつ早急に取り組む基盤作りを訴えてきました。JR北海道の路線見直しに関する課題についても、知事の当事者としての問題意識が感じられないまま議論が進んでおり、第3回・第4回定例会における議論状況を併せてご報告します。

■ 診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書

平成30年度の診療報酬の改定に向け、国の財政制度等審議会では、「医療・介護制度改革」を柱として、今後の診療報酬の適正化や薬価の見直し等について検討を行っています。診療報酬の適正な水準を確保し、経営が守られてこそ、質を損なわない安心・安全な医療を提供することができます。また、公立病院への交付税算定基準を稼働病床に切り替えたことにより、へき地、救急医療など不採算部門を担っている公立病院の経営は一層厳しくなっています。さらには、医師・看護師不足のために、一時的に閉鎖している病床が、将来にわたって閉鎖し続けることも懸念されます。道内医療機関においても、病床削減は出産のできる医療施設や救急医療の受け入れ施設が減少している現状に拍車をかけることにもつながりかねません。このため、第3回定例会において私は保健福祉委員長の立場として「診療報酬を引き下げず、地域医療を守ることを求める意見書」を提案し、可決されました。診療報酬の引き下げを行わず、適正な水準を確保することにより、地域の医療提供体制の構築や公立病院の運営に対する財政措置の確保などが図られるよう、国に対しても、引き続き強く求めていきます。

■ 北海道内における公立病院の役割と地域医療の確保について

私たちの会派は、道内の医療を支えてきた公立病院の現状を鑑み、入院・通院患者数や医業収益などの経営状況について詳細な分析を行いました。この分析をもとに会派の政策審議室、医療プロジェクトチームが議論を重ね、この度、その方向性を取りまとめた提言集を作成しました。提言では、公立病院が地域に必要な機能や業務の連携を目的とした「地域医療連携推進法人」の設立を視野に、地域医療構想の議論を行う必要があることを示しています。そのためには地域センター病院や総合病院と他の病院との連携体制の構築と北海道として積極的な関与が求められます。この考え方を知事には強く指摘しましたが、今後は公立病院や関係機関など様々な方面へ提言を広めるなど、引き続き地域医療の確保に努めます。

■ JR北海道の路線見直しに関する課題について

JR北海道が単独では維持が困難な「10路線13区間」を発表してから1年以上が経過しています。会派としても道に対して具体的な支援策を提示するよう求めてきましたが、知事が危機感を持ち主体的に関わろうとする姿勢は感じられず、この間は議論が進展しないまま現在に至っています。これまでも私たちの会派では、沿線の調査や視察を積極的に行い、国土交通省やJR北海道、北海道に対して、地域住民や沿線自治体の声を聞き、誠意を持って協議するよう要請を行ってきました。その結果、第4回定例会において、知事は車両更新や駅舎修復などの設備投資や修繕に限定して財政支援を行う考えを表明しました。しかし、道として鉄道網のあり方は、未だに示されていないという課題も残されています。この度、路線見直しにおける課題を集中的に協議するため「北海道地方路線問題調査特別委員会」が新たに設置されたことから、知事自らが問題意識を持ち、議論を進めるよう引き続き強く求めていきます。

稲村ひさおの活動アルバム Activity record



新会長のもと力合わせて



子どもたちの将来のために



各地の労働組合で挨拶



保健福祉委員会で中央要請



衆議院選挙でも全力投球



マイケルジェット就航式
地域の医療を守ります



多くの方のご来場
ありがとうございました